

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



実はやってるじゃないか! ゴル

ひとつの懸念材料は、ゴルフ練習場というビジネスそのものが、資産価値に対して収益率がそこまで高くないという問題が第一に相続税の問題です。私の練習場は都内の世田谷区にありますが、周りの練習場がほとんど廃業して、このままだけは都内23区内の屋外練習場はなくなってしまうのではないかと。

練習場は昭和50年代のブームで開業した施設が多いのですが、老朽化の問題もありません。さらに台風で、地球温暖化の影響で台風がどんどん大型化して、千葉県の練習場が倒壊した。心配だから、練習場を止めてしまおうという傾向もあります。それと、大手企業が経営する練習場は、コロナで親会社がダメになって、その煽りを受けて売却するという動きもあります。

G 横山さんは常々、2030年には23区内から屋外練習場がなくなるといふ懸念を口にしますが、それはリアルな傾向だと。

横山 そうですね。すでに山手線の内側は軒あかかないけれど、環七の内側も本当になくなって、23区の外周にある程度でしょう。つまり2030年に向けて、一番住居地に近いゴルフ施設がなくなっていく。これを穴埋めするのがインドアですが、インドアには

限界がある。

G インドアの限界とは? コロナで都部の空室率が高まって、ある種の穴埋めビジネスとしてインドアゴルフが続々入居していますか?

横山 限界というのは打席の数です。インドアは2、3打席、多くても5打席くらいじゃないですか。屋外の練習場は1施設で数十打席、三桁のところも沢山あるので、インドアが新たに1000か所できれば話は別ですが、今の規模感では需要と間に合わないという話です。

G わかりました。次に大石さん、ゴルフ場の立場から現状をどうぞ。

大石 ゴルフ場はピークの2460コースから、この10年間で250コース以上減少しています。需給バランスの面で見れば、過剰なゴルフ場の数が需要に合わせて減ってきたわけですが、ご承知のように、一時のブームで造り過ぎた。バブル期に上場企業が、自分の会社の(接待用の)「奥座敷」として造ったゴルフ場が600ほどあったわけですが、その後民事再生、会社更生という形でファンドを含めた他の経営に変わりましたが、今回のコロナ禍で非常にいいことは、19歳以上70歳未満の世代が延べでほぼ7000万人、実際にブレイしている現象があります。



ゴルフ界SDGsの取り組みと認識

G 今後、ゴルフ業界はふたつの「2030年」がキーワードになると思います。ひとつは団塊世代の2030年問題で、これは800万人規模と言われる人口の大きな塊が2030年に80歳に突入する。シニアゴルフア大量リタイアの問題です。

もうひとつはSDGsのゴール設定が2030年で、17項目のミッションを世界中の人々が達成しようという活動。実現度を表す数値目標を設定しづらく、思想的、観念論的な意味合いも強いのですが、79億人の人類が掛ければ素晴らしい未来がやってくるという話です。このふたつの「2030」とゴルフ界はどう向き合うのか、それが本日のテーマです。具体論に入る前に横山さん、現在のゴルフ界、特に活況を呈した練習場業界についての印象

をどうぞ。

横山 練習場業界の話をするれば、コロナが始まって最初の2、3か月は大きな不安がありました。我々業界団体としては感染防止のガイドラインづくりに早期から取り組みました。それもあって屋外の練習場は感染リスクが低いことが認知されて、この2年間の入場者は毎年10%のプラス成長にあると思います。これが現状の推移ですね。ゼロサムゲームじゃないけれど、ほかのインドアスポーツ系が極端に減って、その分屋外の練習場に集中した。ですから今後、コロナが収束した後にどうなるのかは非常に心配しています。

G コロナ前の景況は?

横山 マイナス傾向が続いてました。なので、収束すればまたマイナスに戻るのではないかと危惧されます。もう

四者四様の不安の根拠

G 大石さんが専務理事を務めるNGKは毎月「ゴルフ場利用税」の課税状況から「延べ利用者数」を出している。日本には精度の高いゴルフ人口データがないものの、NGKは「延べ人数」ながら精度が高い。その利用税の「非課税者」が70歳以上18歳以下となるため、先ほどの700万人という数字がカウントできる。

大石 2021年の延べ利用者数は「速報値」で900万人を超えましたが、2020年度が8234万7000人だったから1割アップの状況です。今から15年ほど前の状況に戻ってますが、仮に同様の世代がゴルフブライアしても、課税対象者の「7000万人」を確保できれば全国のゴルフ場は維持できると思います。それぞれ工夫して確保すれば2030年、40年までこの業界は大きな乱れもなく維持できるのかな、そんなふうに思ってます。

G 確保する工夫が焦点ですね。次に木村さん、ゴルフダイジェストの専務ですが、その立場からゴルフ雑誌の現状を含めてお願いします。

木村 ゴルフ雑誌のことに限定して言いますと、大石さんのお話にもありま



したが、団塊の世代が定年退職を迎えた2000年くらいから徐々にゴルフ雑誌の売上や部数は落ちていきます。同時にネットやSNSの台頭ですね。コンテンツがタダで見られる、もしくはものすごく安く見られるという時代になって、雑誌や新聞の部数が本当に減ってます。

駅の売店もなくなって、コンビニや本屋さんでの販売も減って、どこで本を売ってるの? というぐらいの時代になってしまった。昨年は当社のライバルだったバーゴルフさんが休刊になりましたし、非常に厳しい状況が続いております。

もう、デジタル化の波は変えられないので、どの出版社もそうですが、紙のコンテンツをデジタル化して有料販売したり、いろいろ知恵を絞ってますが、それでも「紙」の売上をカバーするまでは至ってないのが現状です。

G なんかにね、シンミリしちゃいますけど。コンテンツ内容という意味では、ゴルフ誌はレッスンが中心になっていて、これが動画に切り替わった。しかもタダの動画に食われてしまったという感じは、

木村 ありますね。私も知人とゴルフへ行く時に10年、20年前までは雑誌のレッスン記事を読んで、今日はそれを

G すです。

ただ日本語で「持続可能な開発目標」と、極めてわかりにくく身近な言葉になってない。だから何をすればいいかわからないのが弊の問題です。大石さん、説明してください。

大石 えっ、突然言われてびっくりですが(笑)、SDGsは「将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現代の世代の欲求を充足させるための開発」ということで、17の目標が設定されたわけですね。

観念的な言い方をすると、この活動には「倫理観」がとても大事で、倫理観なくして「廃ラ」の活動をやったとしても、それは見せかけのSDGsということですね。SDGsの総意として「誰一人取り残さない」という方針があります。将来の地球環境を考えて、消費するにしても「エシカル消費」(倫理的消費)といったように、新たな価値観を共有することが不可欠になります。

G 強欲資本主義に向けたある種のカウンターカルチャーだと思いますが、この文脈にゴルフを載せるとどうなりますか?

大石 それでゴルフ場はですね、これをやりやすいわけですよ。なぜならゴルフは緑の中で楽しめます。楽しむわけ

試そうとか、そんな話がありましたけれど、最近はずばりのユーチューブが増えて、あの動画見て面白かったね、とか。レッスンコンテンツは完全に動画です。

G 一方でユーチューブ・レッスンは、視聴回数を稼ぐのにアクロバチックな理論や方法を流す傾向もあって、真に受けるも身体に負担をかけるという問題もあります。潮目は完全に変わりましたね。

富山さん、お待たせしました。富山さんは過去30年間、プロギア、キャロウェイなどメーカーで営業のトップを務めました。この5年ほどはアドウェルという会社を起業してガラスコーティングの「ハドラス」を販売しています。同じ質問です。

富山 メーカーからは5年離れていますが、クラブやゴルフシューズにガラスコーティングをする仕事でお店を回っています。ここ最近感じるのは、外資メーカーの一人勝ちが続いていて、国内メーカーが辛い思いをしているな、と。そもそも広大なU.S.市場でもキャロウェイ、テーラーメイド、タイトリスト、ビンの4社でカバーできる。一方で日本には4大外資ブランドの国内メーカーがひしひしといて、当然、競争が激化しています。その競争は値引

き、ポイントカード、お買い物券といったように、引き算のビジネスに陥ってしまわなければ。

で、仮にコロナが落ち着くとゴルフへの支出がほかに分散する、プレー人口も減っていく。すると何が起きるかは明らかです。体力のないメーカーや小売りがドンドン淘汰されていく危機感を感じます。すぐ持っている。それと直近の課題では、コロナでサブライチエーションが破壊されて、ヘッドとシャフトはあってもクラブが壊れて、ヘッドとシャフトを作れない、そんな問題を各社とも抱えているわけです。これはもう、大変な問題だと思えますね。

SDGsとゴルフの関係性を考える

G 練習場、ゴルフ場、メーカー、メディアの各分野で、抜き差しならない問題が起きている。今はコロナ特需で隠れているけど、潮が引いたら砂浜で一気にゴミだらけ。そんな光景が予想されます。これを解決するためには、業界が一丸となってポスト・コロナの施策を実行する必要があります。ゴルフ業界は業種が多だけに総論賛成・各論反対のケースが多かったけど、そこに横串を刺すパワワードが現れた。SD

の「飢餓をなくそう」「貧困をなくそう」のテーマですね。片山さんがおっしゃる「廃ラ」もそのひとつでしょう。いずれにせよ17項目を視野に入れて取り組むことが大事だと思っています。

G 要するに「SDGs」という素っ気ない言葉を身近に引き寄せたいわけですね。老人が横断歩道でヨロヨロしている。荷物を持って手助けする。これも立派なSDGsですが、木村さんは個人的にどうですか。

17項目の目標の何をやればいいのか

木村 正直に言うと、今回のテーマがSDGsということで、まあ、テレビで見たり聞いたりするぐらいの私が何かを話す立場ではないかと思っただけです。カーボンニュートラルとかは聞いたことあるけど、実際にどういうことをしているのかわからない。困ったなあ、と。

そこで少し調べてみました。SDGsは普段の生活や仕事にあまり関係ないのかなと思っただけですが、片山さんがプラスチックのストローをもうないと言ったように、最近のゴルフ場は浴場にビニール袋が置いてない(こ

ろが増えてきた。すると家から洗濯袋を持っていくといったように、普段の生活に17項目のどれかが浸透している。ゴルフ業界でも積極的にやれるんじゃないか、社会に貢献できるんじゃないか、最近はそのように思っています。

G 富山さん、どうですか？

富山 あのお、私は横山さんの考え方とは全く違って、ゴルフ業界が17項目全部やるのは無理ですよ。沢山ある目標から絞り込んで、業界全体で集中してやる姿勢が大事じゃないですかね。その中で12番目の「作る責任・使う責任」と、13番目の「気候変動問題」にゴルフ界は具体的な対策を取る、さらに具体的な数値目標を立てて活動の成果を「見える化」することが大事です。

例えばゴルフクラブですが、ヘッドはチタン、シャフトはカーボン、グリップはゴムじゃないですか。これってきちんと焼却できません。ちよつと焼くことを言いますが、メーカーは需要に対して物を作らないです。需要じゃなくて、前年比とか予算比です。今年は120%の予算でいくとなつたらそれに合わせてモノを作る。だから当然モノが余る。廃棄するのにコストが掛かるし、きちんと廃棄されているかどうかかわからない。全部ムダじゃないですか。こんなことを続けて

ちやいけなと思うんですよ。

G 熱いコメント、ありがとうございませう。横山さんが私の方をチラチラ見ますが、反論ですね。

富山 あのお、私もゴルフ業界でやることは何かと考えた時に、テーマを設定して、一緒にできることをやっていくというのは同じ考え方なんです。特に私の場合は最後の17番です。「パートナーシップ」でみんなが協力して達成しよう、と。やつぱりゴルフ場、練習場などはみんな業界のパートナーじゃないですか。「ジェンダー平等」につきましても、男女平等で横串を刺せば業界の風土も変わるでしょうし、女性ゴルファーの比率が低い現状を解決する発想が生まれるかもしれないなど、いろんな広がりが出てきます。その意味でどれかひとつに特化することなく、と申し上げたわけなんです。

G 大石さんが小首を傾けてます。何か言いたいんですか。

大石 横山さんも富山さんも、ご意見ごもつともだと思えます。その上で、SDGsを見る時の視点は二つあると思うんです。我々は今、何が困っているのか、ゴルフの普及をしたいんですよね。多くの人にゴルフをやってもらいたいんです。だけどそこで弊害になっているのは何ですか？ これはゴルフ

イメージ転換としてのSDGs

「イメージ」は漠然としていて捉えどころがない。でも実は非常に大きな存在で、ゴルフは「自然破壊」「金持ちの社交場」あるいはドラえもんてババが日曜の朝キャディバッグを持ってこつそり家を出ていくとか。そんなイメージの定着が多くの国民の深層心理に根付いて反感を生む。見えない大きな障壁です。

G 「イメージ」は漠然としていて捉えどころがない。でも実は非常に大きな存在で、ゴルフは「自然破壊」「金持ちの社交場」あるいはドラえもんてババが日曜の朝キャディバッグを持ってこつそり家を出ていくとか。そんなイメージの定着が多くの国民の深層心理に根付いて反感を生む。見えない大きな障壁です。



で、そのとき20万ヘクタールをゴルフ場にしちゃってるんです。その内の60%が樹木を伐採して裸地になった。それで環境破壊だと怒られたし、事実そうだと思います。だけど残った40%は緑化機能として年間約400万トンのCO2を固定している事実があるんです。

もうひとつ、ゴルフ場のフェアウェイに土壌炭素が貯留されているんですけど、どうしてかという、ゴルフ場の芝地は「不耕起」で管理しています。つまり土を掘り起こさないエアレーションで全体の3%以内しか穴を空けていない。これによって表層に貯留炭素が溜まって、ゴルフ場は樹木プラスチック

じゃないですか。こんなことを繰り返して

留炭素によって、地球温暖化の防止に役立っている。こういったことを我々は、もつと世間にアピールする必要があります。世間の理解が得られればイメージも変えられるんじゃないですか。

それとSDGsには17項目あつて、各々独立しているように見えますが、実はひとつのことをやると3つ4つが関連してくるんです。使い捨てプラスチックをどうにかしようとなれば12番目の「作る責任・使う責任」のほかにも13番目の「気候変動」の問題にもつなげてくれる。ゴルフ場の食事で食べられる分だけ提供するフードロスの考え方は、単に廃棄物なくすだけではなく、2番目の「飢餓」にも関連する。だからSDGsは、ひとつ手をつければ全部に関連してくるんです。

そういうふうな考えると、何かひとつということじゃなく、将来の人のために「何かをやる」という姿勢がSDGs活動の大元だし、これをゴルフ業界が率先する。率先すればイメージも変わってくる。私はそういう話だと思つてますよ。

G 大演説、ありがとうございました。イメージの問題ですが、本来はゴルフメディアがゴルフの負のイメージを払拭する、是正する役割を担うべきですが、私を含めて手抜きしてきたという

反省がある。この点について木村さんどうですか？

木村 そうですね、大いに反省はしてくれないのですが、やつぱり目の前のゴルフアに役立つ話面づくりに関連してきた。先を見ずに目の前のことばかりやってきたと思うので、もつと先を見てやらなければいけないと痛感しています。

ファーストティは立派なSDGs

G ただね、やってるとは思ってるんですよ。やってることをSDGs活動の一環だと思つてないだけで。たとえば木村さんはファーストティの副理事長を何年くらいやってますか？

木村 もう、7、8年ですね。

G ファーストティは実のところ、極めてSDGs的なんですが、活動内容を教えてもらえますか。

木村 まず、米国にあるファーストティのNPO法人であるファーストティジャパンというのを約10年前に立ち上げたんですが、この活動はゴルフを通じて子供の「人間形成」をやるうじやないか。

ゴルフの技術ではなく、ゴルフ場のメ

ンパーの子供や孫を集めて人間教育みたいなことをやってるんですよ。

G 小学1年生から高校3年生までが累計1万2000人参加してますが、総点数は？

木村 日本は20か所ぐらいで活動していて、米国の活動をそのまま翻訳してやっていますが、特徴は9つのコアバリューです。正直、誠実、スポーツマンシップ、尊敬、自信、責任、忍耐、礼儀、判断。これを子供たちに教えているんですよ。今日はゴルフを通じてスポーツマンシップを学びましょうとか、礼儀を学びましょうとかを小学生から高校生までを対象に教えているんですね。

それで今回、改めてSDGsのことを勉強したら12番目に「作る責任・使う責任」がありますけど、これがファーストティの6番目の「責任」と同じ考え方で、他人を思いやる、スロープレーをしない、ディボットを直す、バンカーを均す、スコアを正しく記入するとか、私が子供に教えていることはSDGsと深く通じているんだなあ、と。だから今はSDGsとの関連性を深めながら、あんなこともこんなこともできるんじゃないか。ファーストティの活動に活かしたいですね。

G 当初は木村さんがゴルフ場に協力

を呼び掛けて、ハナもひつつかけてくれなかつたそうなんですが、最近は協力者が増えていると？

木村 全てのゴルフ場がそうだったわけではありませんが(苦笑)、メンバーが高齢化して世代交代できてないゴルフ場や、メンバーが子供や孫にゴルフをやらせたいところが年々、少しずつ増えてきています。

大石 ちよつといいですか？

G ああ、大石さん……手短かに。ファーストティで感激したことがあるんですよ。あるゴルフ場で中学2年生200人ぐらいをファーストティのプログラムに沿って教えるケースがあつたんです。私が見学に行つたら、そこに車椅子の生徒が一人いたんですよ。通訳、屋外で車椅子の子供がゴルフをするのは無理だなあと思うんですが、その学校からは「この子が参加できるならやります」と。で、どんなことをやったかという、グリーン上に建設用のコンパネを敷いて、その上でバッテリーを打つ、終わったらコンパネを片付ける。だからグリーンに傷が付きませんが、車椅子の子供がゴルフをやりたいと思つたことで、200人の生徒がファーストティに参加できた。感激しました。以上です。

G いい話ですね。SDGsの総意は「誰一人取り残さない」ですが、今の話は4番目の「教育」や10番目の「不平等の解消」にもつながってきます。次に富山さん、御社は「ハドラス」というガラスコーティングを市場に定着させた。クラブやショップに売って長持ちするという商品ですが、余計な消費を煽らないという点で「作る責任・使う責任」に適っている。その売上の一部を森林保護のために寄付する活動を始めました。

富山 いや、寄付はありません。
G そうですね。いつも間違えて怒られるんですが(笑)、詳細を説明してください。

利益の一部を森林保全に提供

富山 ハドラスコーティングの施工件数は年間50万件、1施工が2000円として、年間10億円の新市場が出来上がりました。一部には「新品が売れなくなるじゃないか」という声もありますが、この5年ほど地道に活動した結果、専門店や量販店でも向きの取組みが増えていきます。せっかく買ったものも長くと大切に使用してもらう、その意味でSDGsに適しているという



感じています。で、これだけの施工件数があるんだから、一般社団法人のフォレストック協会に、この団体は国内に広大な森林を10か所ほどもつ団体ですが、我々も森林保全に協力しようと考えたわけです。

コーティング1施工につき10円でも20円でもいいんですが、フォレストック協会からCO2の吸収量クレジットというものを買う。買うことで、二酸化炭素の削減に貢献するプログラムです。早速、二木ゴルフさんが3月からスタートしました。基本的には、ショップの売上から戻すというものです。大石さんの話もありましたが、全国のゴルフ場面積は神奈川県と同程度です。その内40%の森林は残すとしても、6割の本を切っている。伐採した木の削

減量を取り戻しましょう、と。
G なぜ、始めたんですか?

富山 なぜ……?

G そうです。なぜ?

富山 それは、ゴルフで、クラブ買うとか言われて、プレイするのも同じですが、なんか胸を張れないですね。そういった後ろめたさの背景には、先ほどのイメージの話もそうなんです。森林破壊してゴルフを楽しんでるという意識があるんじゃないか。我々ゴルフでメシを食ってる人間は、そういった後ろめたさを取り除いて、正々堂々と胸を張ってゴルフができる、そんな環境をつくる責任があると思うんですよ。それが一番の動機ですね。

G 自然の恩恵で成り立つゴルフ産業が、環境問題に無頓着だと優秀な若者が業界に入っていない。我々の世代より誰かに環境問題を深刻に受け止める世代だから当然です。優秀な若者がいない業界に未来はない。それも富山さんの持論ですね。

富山 まったくおっしゃる通りです。

G 横山さん、練習場業界はどうですか? SDGsなどは意識してなかったけど、実はそうだったという活動があるんじゃないですか?
横山 そうですね。今の「後ろめたさ」

もそうなんです。もうひとつはゴルフの「敷居の高さ」もあると思うんです。敷居を下げることも大事な要素で、我々練習場業界は地域密着型ということもあって、私の練習場(都内世田谷区)では貸祭りなど地域を巻き込んだイベントをやっています。同様の活動をいろんな練習場がやっています。練習場連盟も発信に努めているわけですが、SDGs活動で言えば豊かな地域コミュニティづくりは口癖の「住環境」に当たるとは思っています。

実際、我々の業界というのは地域社会の理解がないとダメなんです。ボールの打球音や芝を刈る音、千葉県の練習場が台風で倒壊した事故があったように、一連感を掛ける部分もある。ですから地域貢献や地域との共生はとても大切なことなので、ひとつの指針としてSDGsを取り入れることも重要なんです。

あと8年間で何ができるか?

G みなさん言いたいことが沢山あって、想定以上に時間食っています。言い忘れましたが、最後に聴衆と質疑応答をやりませんか。質問や意見を考えたいです。挙手がなければごち
G 理想的なゴルフ業界だと思いますが数字に表れない部分でも、SDGsの取り組みの中で業界が横串を刺せるものがある。この点をしっかり伝えて、各団体が具体的な取り組みができるよう2030年に向けてやっていきたいですね。
そして、ゴルフ場にしても、ゴルフ練習場にしても、ゴルフ場以外の人からいろんな活用をされて、その結果敷居が低くなり、地域と共生できる施設になる。そういうことをこの練習場もゴルフ場もやっているよ、といううかが8年後の理想です。また、今は女性のゴルフ比率が2割くらいですが、これが男女5対5になるようにしたいです。それから若い人が気楽に参加できるゴルフ界にするためには先ほどのファーストテイもある。練習場業界もジュニア検定の仕組みをつくらせているので、SDGsを軸にすればいろんな連携ができるでしょう。これから集約して社会にアピールする努力をですね、このGMACから発信できればと思っています。

G 制限時間を越えました。質疑応答の時間がなくなりましたが、質疑に延長します。それではどうぞ。
(ゴルフ場の太陽光パネルに関する質問があったが誌面の都合上割愛)



らから勝手に指名します。それでは最後に2030年、あと8年後ですが8年後に理想とする業界の姿をそれぞれ簡単にお願いします。大石さんから簡単に。
大石 8年後の理想というか、私が強く思っているのは、業界のみならず8年後のビジョンを共有したいということです。ビジョンがどういうものかという、ゴルフ界だけで通用するビジョンではなく、あらゆる人が「あつ、ゴルフはやらないけど、ゴルフ界が考えているビジョンは素晴らしい」と思ってもらえるものをつくりたいんです。今、日本の社会で欠けているのは、ウエルビーイングな社会、これなんですよ。

日本はGDPが高い、社会保険の制度もいい。だけど世界の幸福度ランキングでは149か国中で日本は56位です。他の先進国よりも遥かに低い。そのような現状から抜け出して、もっと豊かな社会になるように。豊かというのは物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさ大きい。そのためにゴルフをもっと活用してもらえ。みんながゴルフを楽しんでもらえるような社会をどうやって構築していくか、そのためのビジョンを共有したいんです。
G はい、木村さんお願いします。
木村 そうですね。少子高齢化は2030年に向けて変えられないと思います。これからゴルフ人口が減少する可能性は大きいですが、高齢者がいづかゴルフができなくなるのは仕方ないことだと思います。ですから8年後は、もつとコンパクトなゴルフ業界にならざるを得ないかもしれませんが、そこに関わっている人たちが豊かになれるような状況になっていければいいなと感じています。

あと、大企業や自治体がSDGsへの取り組みを数年前からやっていますが、ゴルフ業界もSDGsに関わる取り組みについて認証制度を設けるとか、外からきちんと認識できる制度があればいいのではないかと、そうすればこの活動がもつと活発化するのではないかと

思いました。

G はい、富山さん。

富山 SDGsは2030年までに目標を達成しないといけない。これは決まっているわけだから、ゴルフ業界としても具体的な数値目標を立てる必要があると思います。ゴルフ界の協力で2400キロ平米の森を回復しようでも何でもいいんですが、その数値がないんです。先ほど片山さんがプラスチックのスパーンをもらわないと言いましたが、もらわないこととどれだけ環境に貢献しているのか、ここが見えない。なのでゴルフ業界は2030年に向けて一致団結して数値目標をもつてやる。それが若い人のマインドに必ず響きます。あと我々の世代は2030年、2050年にはいないですよ。いなくなる人間がこうやってしゃべっていてもダメですよ。

G プラスチックのスパーンというのは、SDGsという極めてわかりにくい言葉を身近に引き寄せるために言うたわけで、ひとつの方便ですよ。つまり……まあ、いや。横山さん、締めてください。

横山 はい。私もこういう立場におりまして、いろんなものを見聞きして正直、数値目標は難しいとは思っています。本来は、数値目標ができることが